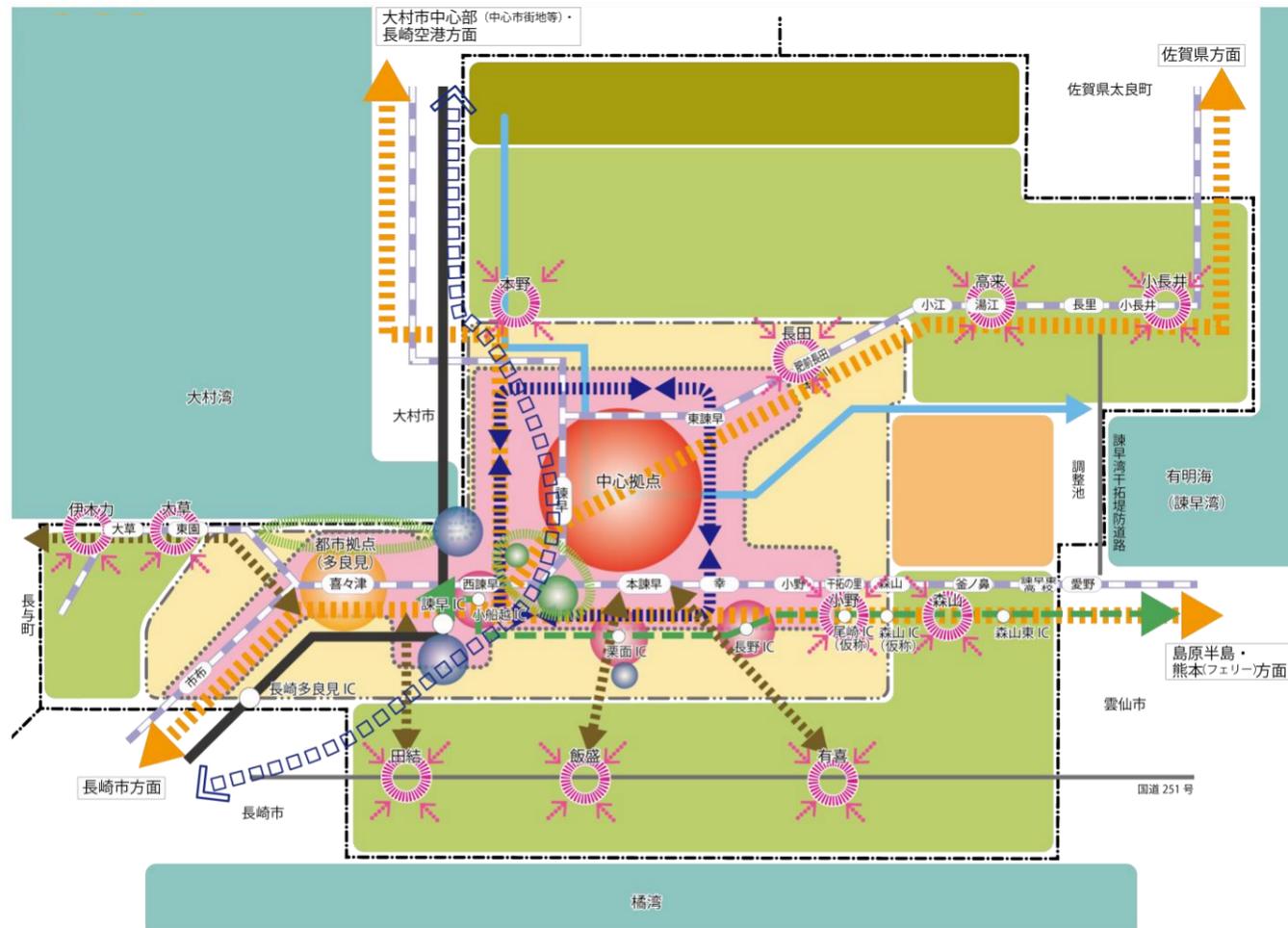


＜諫早市の都市計画の目指す将来像＞  
ひとと自然がきらめく  
県央交流都市

■ 諫早市 将来都市構造図



ゾーン		市街地ゾーン	拠点		中心拠点	軸		広域交通軸	 - - - 行政区域界 - - - 都市計画区域界 - - - 市街化区域界 高速道路 鉄道
		市街地外周ゾーン			都市拠点			市街地循環交通軸	
		森林ゾーン			生活拠点			地域連携交通軸	
		農地・丘陵ゾーン			産業拠点			九州新幹線(西九州ルート)	
		田園ゾーン(干拓農地)			沿道型活力創出拠点			地域高規格道路「島原道路」	
			緑の拠点		河川軸				
			スポーツ・レクリエーション拠点						

諫早市の、私たちの、将来のまちづくりを考える  
諫早市都市計画マスタープランを  
改訂しました

★ 諫早市都市計画マスタープランとは

諫早市都市計画マスタープランは、本市の概ね20年後のまちの姿を見据えて、道路や公園、下水道等の都市施設、自然環境や景観といったまちづくりに関する様々な分野の基本的な方針を示し、行政と市民が一体となって、その実現に向けて取り組むための指針となるものです。



# 都市計画マスタープランって具体的にどのように使うの？



例えば、「道路」については、都市計画マスタープランで示した基本的な方針に沿って、道路に関する個別計画を策定し、具体的な施策・事業を進めています。  
 今後も、都市計画マスタープランで示した将来像の実現に向けて、新たに個別計画をつくったり、その計画に基づく施策・事業を進めていきます。

## ＜都市計画マスタープランの位置づけ＞



## 都市計画マスタープランに沿った“個別の関連事業計画”の策定

＜都市計画マスタープランと“個別の関連事業計画”の一例＞

例えば、「道路(橋)」について

### ● 都市計画マスタープランで示す方針(例)

「既存道路の改修、交差点改良、道路空間の再整備等により、自動車交通の円滑化や快適性の向上を図ります。」

### ● “個別の関連事業計画” ⇒ 例:道路(橋)の修繕等に関する計画を策定

都市計画マスタープランで示した方針を踏まえ、道路(橋)を長持ちさせるとともに、維持管理費用の削減を図りつつ、地域の道路網の安全性・信頼性を確保することを目的に「**諫早市橋梁長寿命化修繕計画**」を策定しました。

- 橋梁ごとに劣化・老朽化状況等を評価し、修繕等の必要性を把握。
- 評価を踏まえた対策の優先度・重要度を整理し、橋梁ごとの点検・修繕の年次計画を作成。



## ◇ 今後、本市で懸念される主な問題点 ◇

人口減少や高齢化が進展すると？

中心市街地の活力が低下する！

地域コミュニティの維持が困難となる！



就業の場としての選択肢が少ないと？

若者をはじめとする人口流出が加速する！

税収減少や社会保障費の増大が進むと？

市民ニーズに的確に対応した公共公益サービスの提供が次第に困難となる！

自動車への依存が高いまちは？

公共交通機関の衰退が進む！（利用者の減少）

交通弱者にとって生活しにくい社会になる！



## 社会情勢の変化に対応した都市構造の実現

人口減少や超高齢化社会を見据えた持続可能なまちづくりを実現するために、まちの中心部への都市機能※1の集積による「集約型都市構造※2」の構築を図りながら、「交通の要衝であることの立地特性を活かした土地利用」として幹線道路沿道の既存の集積した都市機能や交通ネットワークを有効に活用した拠点の形成を図ります。

そこで活躍するのが、**都市計画マスタープラン**



※1)都市機能：住民生活や企業の経済活動に対して様々な働きやサービスを提供する、都市が持つ機能のことをいいます。具体的には、居住、業務、商業、医療、福祉、行政、文化、観光、交通などのサービスを提供する機能(施設)があります。

※2)集約型都市構造：賑わいや生活の拠点となるまちの中心部に、住宅や産業、商業、公共サービスなどの多様な都市機能が適切に配置されたコンパクトで暮らしやすいまちづくりを実現した都市のつくり方を言います。また、市全体の中に複数の拠点を形成しながら、それぞれの地域を公共交通等によりネットワークすることで、市民が自動車に頼ることなく暮らせる環境の創出を目指すものです。